

ちょっと気になる八王子マガジン

は ち ど ろ ひ



2026年 涼風号

No.63

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉



景信山山頂からの眺め

特集 八王子の山

そこに山はあるのかい？

目指せ！ 八王子八十八名山

八十八名山から選りすぐり

特選 八王子の八名山

陣馬山→景信山縦走ルートを歩いてみた

とっておきの登山コース体験記

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌②

コラム 八王子自然探訪⑮

私の本はこうして生まれた 其の六十三

新八王子山の会

暮らしのなかのヤマ ― かつての谷戸の生活から

誰でも行ける山

『改訂 メカイの作り方』 八王子由木メカイの会 編

佐藤 広
粕谷 和夫

八王子にある山といえば、なんといっても高尾山。では、他にどれくらい山を挙げられますか？ 市内には、みなさんの想像以上に多様な山々が数多く連なっています。2024年、そうした中から選りすぐりの山88座が選出されました。市民によって選び抜かれた「八王子八十八名山」の全容と、そこから見える奥深き山の世界をご紹介します。

そこに山はあるのかい？

目指せ！

八王子八十八名山



八王子名山を作ろう

八王子八十八名山（p5参照）誕生のきっかけは、山登りが趣味の福祉団体代表、小林弘幸さん、市内登山愛好家の集まりである八王子山の会で当時会長を務めていた佐野聖文さんの2人の山好きが、市内の山登り中に邂逅したことに始まります。

かねてより「八王子名山」やご当地アルプスの1つとして「八王子アルプス」みたいなものがないかと漠然と思索していた小林さん。市内

の山のすべてを網羅していると自負していた佐野さんは、そんな小林さんと語らううちに、一緒に「八王子名山」を作ってみたいと意気投合します。折しも翌2024年に「山の日」全国大会の八王子開催が控えていたこともあり、そのイベントに合わせて「八王子名山」を発表しようとプロジェクトがスタートしました。



そもそも山とは？

八王子八十八名山は、登山者向けの山だけを選んで

のではありません。いま現在の山の姿がなくても、昔から山として扱われていた場所はすべて「山」と捉え、八王子の歴史や地理的背景を色濃く反映した、「八王子らしい山」を幅広く選出しようと試みしました。

このような観点に賛同してプロジェクトに関わった有志が手分けして調べてみると、市内には300以上の「山」があることが判明します。中には頂上のない山もあれば、いまは姿かたちがなくとも歴史上は山という扱いをされていたものも含まれています。



選ばれた山は？

その結果、山として登るにふさわしい36座を「八王子名山」、その選からは外れたものの八王子と切っても切れない山（峠や街道、要衝、公園、現在は山体が整っていないものを含む）52座を「八王子隠れ名山」、この2種類の名山を合わせて、八王子の「8」にかけた88座としました。

選定にあたっては八王子山の会のメンバーのほか、『高尾山登山詳細図』（吉備人出版）で知られる守屋二郎さんたちも含めた約20名が参加しました。

まず市民に対してはチラシやポスターを各所に配布することで、「あなたが選ぶ八王子の名山」を募集。並行してプロジェクトメンバーも各々実際に山に登って、名山にふさわしいかどうか検証を重ねました。中には市内で判明している300以上の山、すべてに登った強者もいたといいます。

また、山に向いてチラシを配布するなどして登山者に呼びかけたところ、300以上にも及ぶ声が届きました。このときに集まった意見を参考に、さらに検討を重ね、八王子にとつて欠かせない山を加えていきました。

選出の際、特に山の歴史的な側面で活躍したのがコワーキングスペース八王子エイトビット代表の小柳次郎さんです。「たとえば散田町がかつて『平塚山』と呼ばれていた山は、昭和初期に市内初の給水施設ができたことで『水道山』と呼ばれるようになりました。このように1つの山だけでなく歴史や物語を深く掘り下げていくことができるんです」と小柳さん。同じように88の山1つ1つには詳細な解説が作成されています。

選定にあたって、佐野さんは「100年先でもここにあり山が良かったと言われるような思いで選んできた」と振り返ります。この強い思いを示すような、メンバーの並々ならぬ努力の甲斐もあり、選定結果について「なぜこの山

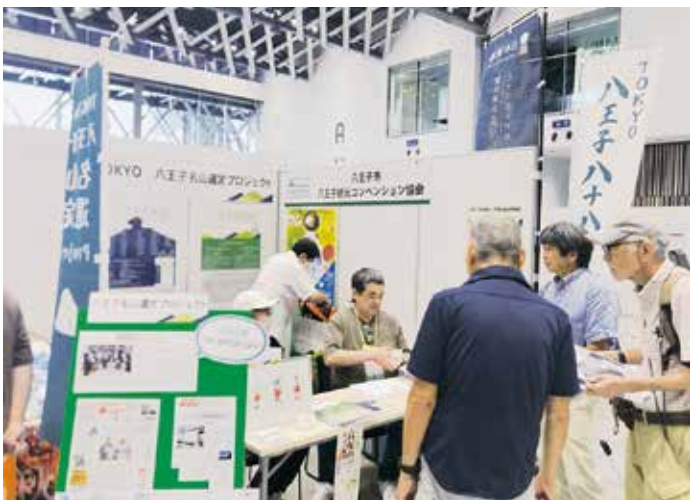
TOKYO 八王子名山選定プロジェクトの活動



プロジェクトのみなさん



選定のようす



2024年8月に東京たま未来メッセで開催された「山の日」全国大会の歓迎フェスティバルでブース出展



いまも販売中の3種の御山印

がないのか」という意見は皆無で、むしろ「こんな山もあったのか」という声が寄せられることが多かったそうです。



八十八名山の反響

2024年8月に開催された「山の日」全国大会では、事前にメディアなどで取り上げられたこともあり、「八王子八十八名山のガイドブックはないか」という問い合わせが殺到しました。ただ、残念ながら一覧はホームページでしか紹介していませんでした。め、当日も一覽リストの配布のみ。用意したリストはすぐになくなってしまい、反響はともな大きいものでした。

現在、「八王子八十八名山」は『高尾山登山詳細図』最新版に明記されているほか、山岳サイト「ヤマレコ」にも登録されています。ヤマレコのコメント欄を覗くと、市民に限らず、東京都民、さらには都外の方も八王子八十八名山を目指していることが窺えます。

今回八十八名山を選定した

ことにより、たとえば入山尾根の一ツ石山など、いままで道がなかったところに人が歩き始めたことで、自然と山道ができ始めているといいます。他にも松子峰では、セブニーレブン記念財団によってプレートや登山記念の「御山印」が製作されました。また、小宮町の久保山では、町会主催で記念ハイクを開催したりしてきました。

プロジェクトメンバーもひよどり山、醍醐丸、景信山の3山の御山印を製作し、ネット通販で展開しています。このように「八十八名山」は多くの人を呼び寄せ、市内の観光資源の1つとして活用され始めています。

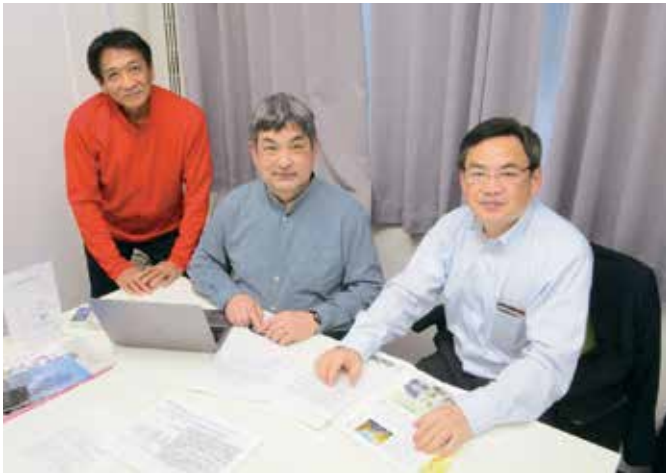


十山十色

実のところ、発起人の1人の小林さんも36名山の3分の2ほど、隠れ52名山の半分くらいしかまだ登り切れていないといいます。「一ツ石山は難しい」「古愛宕山は下りがきつい」と語るように、気軽

に登れる山ばかりではなく、山登りの玄人でも難儀するところもあります。また、特に市内北側の山々に顕著なのですが、未だに道のない山もあります。

いずれにせよバラエティ豊かな山々が挙げられているのは間違いありません。佐野さんは「市内には初心者も玄人もそれぞれ楽しみなが歩ける山がたくさんあって、その1つ1つが面白いし、まだまだ



▶左から佐野聖文さん(好きな市内の山はひよどり山、以下同)、小柳次郎さん(景信山)、小林弘幸さん(陣馬山)

だ穴場もいっぱいあります」と、八王子にある山の魅力を語ります。

選定後には八王子八十八名山踏破を目指して、毎月1回、市内の山を登っていく「TOKYO八王子八十八名山を歩く会」を開催。多いときは15人くらいが参加し、選出された山々を少しずつ踏破していくことを目指しています。



これからの山

山登りの楽しみの1つといえば、なんといっても頂上などの見晴らしの良さでしょう。ただ、市内の山々の中には人工林がそのまま放置され、見晴らしが必ずしも良くない場所が多いのは残念なところ。陣馬山〜高尾山縦走の山稜もその大半に木々が生い茂っています。佐野さんは昭和40年ころに初めて登山をしたこのコースを「当時は周囲に木がなく、見晴らしも良かったんですよ」と振り返り、かつてのように見晴らしが良くなつてほしいと望んでいます。

八王子山の会

- 例会：毎月第2水曜日19:30~21:00、クリエイトホール
- お問い合わせ：takewashi1@gmail.com (鷲林)

1959年創立の山岳会。ハイキング、低山歩き、植物観察、山の温泉探訪、クライミング、沢登り、雪山登山、山スキー、海外トレッキングなど、それぞれの会員があらゆる形で山との関わりを楽しんでいます。毎月1回の集会「山話会」で山行計画や山行報告を行い、誰でも参加可能な低山山行を月1回実施。夏には沢登り研修、暑気払い、冬には雪山研修、年末には「忘年山行」を行っています。

登山学校のような育成はしていませんが、上部団体の東京都山岳連盟で指導員として活躍しているメンバーや日本スポーツ協会公認山岳指導員(コーチ)の資格保有者も数名在籍。共に登るだけでなく、山を愛する人たちが生涯にわたって語り合える居場所を目指しています。ご興味のある方は、まず上記問い合わせ先にご連絡の上、毎月の例会(山話会)にご参加を。



また、山は本来10万年前、100万年前から変わららず、そこにあるものですが、現代は開発などにより、数十年で山そのものが削られ、なくなってしまうことがあります。逆に残土処理という名目で、新たな山が出現すること

も。山は私たちの歴史や課題を映し出す大きな鏡といえるかもしれません。小柳さんが今後の課題として語る「ここで選んだ八王子八十八名山を後世にどう残すか」という言葉には、本来悠久の時を見据えるはずの山

が、いつまでもそこにはないかもしれないという危機感をも孕んでいることを示しています。太古からまちの様子を見続けてきた「山」……。あなたのすぐそばにある八王子の「山」に登り、その魅力を肌で感じ取ってみませんか。

肌で感じ取ってみませんか。

TOKYO 八王子八十八名山とは？

2024年4月、TOKYO 八王子名山選定プロジェクト実行委員会が、市民公募を参考にしながら市内全ての山を踏査し、八王子八十八名山を選定しました。ここでは山として登るにふさわしい「八王子名山」、その選からは外れたものの八王子と切っても切れない「八王子隠れ名山」の山名をすべてご紹介します。

これは
山です

八王子名山

八王子の歴史や伝承にゆかりがある山。集落や文化形成の中心となった河川の源頭にある、山容に個性があり山体が大きい、天然林が多く人造物が少ない、眺望が良い、などの基準を満たした山が選ばれています。

三十六座一覧

醍醐丸 (867m)	堂所山 (731m)
一步地山 (780m)	黒ドツケ (623m)
栗ノ木沢ノ頭 (724m)	高ドツケ (560m)
豆佐嵐山 (648m)	富士見台 (550m)
舟子尾根ノ頭 (610m)	八王子城山 (461m)
古愛宕山 (509m)	熊笹山 (530m)
今熊山 (505m)	景信山 (727m)
滝山 (約160m)	小仏城山 (670m)
遠野谷戸山 (404m)	日影乗鞍 (621m)
天合峰 (300m)	高尾山 (599m)
一ツ石山 (536m)	大洞山 (536m)
高留沢ノ頭 (589m)	中澤山 (494m)
恩方山 (536m)	泰光寺山 (475m)
盆前山 (498m)	榎窪山 (420m)
千手山 (356m)	草戸山 (364m)
高岩山 (800m)	初沢山 (294m)
本宮山 (732m)	大塚山 (213m)
要倉山 (562m)	
陣馬山 (855m)	

*山名に付記した()内の表記は標高を表す

これも
山です

八王子隠れ名山

八王子名山からは惜しくも外れたものの、プロジェクト選定委員たちが推奨した山。山だけでなく、街道、要衝、公園、現在は山体が残っていない山も含みます。また、ハイカーだけでなく、お年寄りや子どもでも楽しめるものを含んでいます。

五十二座一覧

浅川金毘羅山	久保山	富士森公園
一丁平	小庄山	古瀧山
稻荷山	御殿峠	松子峰
犬目山	御殿峠の尾根	丸山
猪鼻山	小仏峠	万葉公園
入沢山	散田平塚山	御堂山
宇津貫公園	陣峰	峰見通り
宇津貫毘沙門天	内裏谷戸公園	明王峠
大石山	大六天	明王谷戸ノ峰
大塚公園	出羽山公園	明神山
大平公園	枋淵峠	野猿峠
沖ノ谷戸公園	廿里山	山田峰越え
小山内裏公園	長池公園	龍ヶ嶺
片倉山	長沼公園	蓮生寺公園
カタクリ山	七国峠	
上川の里	日向峰通り	
上柚木公園・愛宕山	靄留山	
川口川の頭	ひよどり山	
金峰山	平山城址公園	



*整備された登山道のある山は限られています。登山する場合は、地図を見て十分な下調べをし、通行止めの標識などの指示を遵守して登りましょう。
*廿里山は2026年5月現在、立入禁止地域に当たります。

1 景延山

(727m)

裏高尾町の西方、神奈川県相模原市との境に位置する。陣馬山と高尾山のほぼ中間地点にあり、奥高尾縦走路上の山としても知られる。諸説ある山名の由来の1つに山間高地の木がなく、草の生い茂ったところという意味があり、よく晴れた日には山頂から東京の街並みが広く見渡せる。また、平地からもよく目につく山で、市内各所より眺めることができる。漫画『鬼滅の刃』に登場するキャラクター、時透無一郎の出身地。八王子八十八名山市民投票第1位。別名「景延山」。



アクセス
JR・京王線高尾駅北口よりバスで「小仏」下車、山頂まで徒歩約60分

2 高尾山

(599m)

四季折々の美しい自然や、変化に富んだ6つのハイキングコースがある。ケーブルカーやリフトがあり、老若男女を問わず気軽に山登りができる。山頂を含む一帯は「明治の森高尾国定公園」に指定。霊山としても長い歴史をもち、山腹にある高尾山薬王院は真言宗智山派の関東三大本山の1つで、関東三十六不動尊第八番札所でもある。ミシュランが選ぶ三つ星観光地に選ばれ、世界で最も登山者数が多い山とされている。別名「十三州見晴台」「紫陽関」。(はちとび49号参照)



アクセス
京王線高尾山口駅下車、山頂まで1号路で徒歩約100分

3 今熊山

(505m)

上川町西部に位置する閑静な山で、川口の源流でもある。今熊とは「今熊野」のことで、紀州の熊野本宮大社を勧請したと伝えられることに由来する。ふもとに金剛の滝は雄滝と雌滝に分かれ、修行の場であったとされる。山頂に鎮座する今熊神社には安閑天皇妃が行方不明になった際、この神社に祈願したところ無事に見つかったという伝説があり、それ以来「呼ばわり山」と呼ばれるようになった。春にはミツバツツジが咲き誇る。(はちとび42号参照)



アクセス
京王八王子駅・JR八王子駅北口からバスで「今熊山登山口」下車、山頂まで徒歩約60分

4 陣馬山

(855m)

市内2位の標高を誇る。戦国時代に北条氏と武田氏が対陣したことから、陣張山と言われたものが、後に陣場(陣馬)山と呼ばれるようになったと伝えられ、天正年間には甲斐武田氏の狼煙台(のろし)があったとされる。山頂は八方の展望に恵まれ、2軒の茶屋もある。また、富士山に向かっていなく大きな白馬像があり、晴れた日には東に都心、西に富士山と、360度の大パノラマが楽しめる。桜の名所としても知られる。(はちとび46号参照)



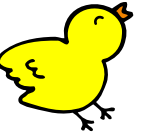
アクセス
JR・京王線高尾駅北口からバスで「陣馬高原下」下車、山頂まで徒歩約90分

特

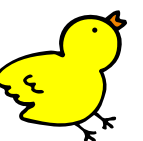
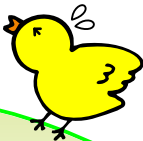
選

八王子の

八王子には「八十八名山」がありますが、ここではさらに厳選した市内八名山を取り上げます。市内では割と有名な山もまだまだ知らないことばかり。



八名山



5 八王子城山

(461m)

山全体が、戦国時代に北条氏が築いた山城、八王子城跡になっている。1590年の落城以来、手つかずの状態だったが、近年遺構の発掘調査が進み、山麓に整備された御主殿跡には橋や石垣が再現されている。山中には石段や砦の跡が随所に残り、本丸跡の山頂直下には八王子神社の社殿がある。城山川の谷奥にある山から「深沢山」と呼ばれたほか、「守護寺山」「慈根寺山」「牛頭山」「八王子山」「古城山」など多くの別名がある。(はちとぴ45号参照)



アクセス

JR・京王線高尾駅北口からバスで「霊園前・八王子城跡入口」下車、管理棟まで徒歩約20分(土日祝日は「八王子城跡」下車すぐ)、山頂まで約40分

6 醍醐丸

(867m)

「篠窪ノ峰」「灰焼平ノ峰」「醍醐山」など、山名は諸説あったが、各種地図に記された「醍醐丸」が定着している。八王子市最西端にあり、東京都檜原村、神奈川県相模原市との3市村の境にある、八王子市最高峰の山。浅川の支流、醍醐川の水源にある。北側が切り開かれた山頂まで登ると、奥多摩の大岳山方面を眺望することができる。登山道の一部は、関東地方1都6県を1周する長距離自然歩道、関東ふれあいの道「富士見のみちコース」に含まれている。



アクセス

JR・京王線高尾駅北口からバスで「陣馬高原下」下車、和田峠・醍醐峠を経て山頂まで徒歩約110分

7 散田平塚山

(166m)

小比企丘陵東端部一帯にあった弥生〜古墳時代の平塚遺跡の一部であり、そこから名付けられた。周辺は住宅街や緑地に囲まれ、100段以上続く階段もある。頂上にあるのは現在八王子にある19か所の給水拠点の先駆け、散田給水所。元本郷浄水場で取水した水を高圧送水でこの山まで送り、市内に給水するため1929年に竣工した散田配水池がルーツとなっている。そこから「水道山」と呼ばれるようになった。(はちとぴ18号参照)



アクセス

散田給水所まではJR西八王子駅南口から徒歩約15分

8 ひよどり山

(154m)

兵取山に由来するとも言われるが、元々は北側の加住地区での呼び名で、山の南側では古来の地名を取って安土山(安戸山)と呼びなしている。現在は都立小宮公園として整備され、鬱蒼とした森林が広がる公園の最奥の湧き水は大谷川の水源になっている。南麓の中腹(現在、右田病院があるあたり)に明治時代から昭和初期まで行楽地つつじ園があり、浅川や八王子の町の中心部の眺望が良い地として知られていた。(はちとぴ44号参照)



アクセス

小宮公園まではJR八王子駅、京王八王子駅からバスで「八王子郵便局前」下車、徒歩約10分

ていつのおきの登山コース体験記

陣馬山→景信山縦走ルート (2026. 3. 10実踏)

数多ある市内登山ルートの中で、今回編集部としてとっておきのコースにトライしてみました。今回のルートを設定し、取材にご同行いただいたのは新八王子山の会（P10参照）のみなさん。当日、山頂は氷点下、時折霧雨が降り、濃霧で視界がきかないなど、悪条件の中の登山ではあったのですが、めったに見られない素敵な景色に出会えました。

本誌P5やP6・7でも紹介しているように、市内には険しい所だけでなく、緩やかな登りルートのある公園など、多種多様な山があります。実際に登ってみると、遠くから眺めるもよし。どこにいても、どのような方法でも四季折々の変化を感じられるのが山の醍醐味。山の数だけ楽しみ方は無限にあります。ぜひあなたに合った山を探してみてください。



▶今回お世話になった新八王子山の会のみなさん。左から比留川多恵子さん(好きな市内の山は陣馬山、以下同)、八尋信子さん(高尾山)、中島章宏さん(八王子城山)



今回体験した 登山コース

- ① 陣馬高原下バス停
- ② 新ハイキング
コース入口
- ③ 陣馬山山頂
- ④ 明王峠
- ⑤ 堂所山
- ⑥ 熊笹の道
- ⑦ 景信山山頂
- ⑧ 小仏バス停

*この登山コースの多くが
舗装されていない山道
で、急峻な箇所もいくつ
もあります。登山される
際は計画や装備に万全を
期し、自分の体力、体調
にあった歩き方をしま
しょう。





の市民団体紹介

応援します
市民力。

市内で活躍する元気な団体・サークル・同好会を紹介するコーナーです。
活動内容やイベント情報など、編集部までお知らせください。

- ◆例会：毎月第1土曜日15時～(変動あり)、富士森体育館にて
- ◆会費：6000円/年
- ◆お問い合わせ先：651-0081(須崎)

新八王子山の会

みんなで登れば怖くない

新八王子山の会は、1959年に発足した八王子山の会(本誌P4参照)をルーツとして、1991年に同会の壮年部から発展的に独立したグループです。

ただ山に登るだけでなく、毎月1回、第1土曜日(日程変更あり)の午後に富士森体育館で「山話会」を開催し、会員情報の共有を図っています。ここでまず話題に挙がるのが、メンバーが次にどの山に登るかの計画発表です。個人登山ではなく、熟練したメンバーが入念な山行計画を準備するのが「山の会」たる所以。登山の回数を重ね、技術を備えた方がリーダーとなり、魅力的な「山行」コースを提案して、共に登る仲間を募ります。続けて、実際に登った山の情報(どの山に、いつ、誰と登ったのか)を報告したり、会の情報なども確認し合ったりしながら2時間ほどで終了。山話会での情報は毎回作成する会報「NHMC」に掲載して、記録としても残しています。

目下、会の悩みのタネは、会員数の減少とメンバーの高

齢化です。かつては山話会が月2回開催されるなど、メンバー間で多くの山行計画が活発に実施されていましたが、現在は会員数も激減し、13名ほどに。それに伴って山話会や山行の数も減少してしまいました。さらに冬山訓練・歩荷(荷物を背負った山越え)訓練・沢登り・緊急対応など、本格的な登山に欠かせない活動もなかなか手がまわらない現状にあるそうです。ただ、山に登りたいという気持ちは、年齢や人数にかかわらず会員全員が持っています。常に危険がつきまとう山の世界も、経験豊富なメンバーと一緒に登るからこそ安全に楽しめるのです。初心者・経験者問わず、山が好きの方なら、ぜひ登山体験を共有してみたいかがでしようか。



▲八王子城山への例会山行のようす

※ここは「はちとび」を応援して下さっている方々に自由に使っていただくフリースペースです。今回は「八王子市学園都市文化ふれあい財団」です。



鑑賞事業

クラシック、ジャズ、オーケストラ、ポピュラー、声楽など、幅広いジャンルの企画を実施



次世代育成事業

八王子ユースオーケストラ、トイ♪トイオーケストラ!、演劇ネットワークぱちぱち、学校アウトリーチなどの企画・制作



街に出ていく開かれたフェスティバル事業

八王子芸術祭(10年にわたり隔年で開催中の巡回型芸術祭)や「伝承のたまてばこ」などの企画・制作

お問い合わせ

TEL 042-621-3005

(9時～17時)



財団HP



財団Instagram

(公財) 八王子市学園都市文化ふれあい財団

暮らしのなかのヤマ — かつての谷戸の生活から

八王子市域の西半分は、関東山地が広がり、その山地から派生した標高3000mから2000m前後の加住北丘陵・加住南丘陵・川口丘陵・恩方丘陵・元八王子丘陵・舟田丘陵・小比企丘陵が東へ、多摩丘陵が東南へと延びている。多摩丘陵は



▲ヤマの尾根道 (1970年代)

八王子市・町田市から日野市・多摩市・稲城市・川崎市・横浜市などを経て三浦半島まで延びている。

これらの丘陵にある集落は、谷戸あるいは谷津と呼ばれる小河川が丘陵を侵食してできた谷筋にある。谷戸の集落は共有地をもち、冠婚葬祭などの生活と田畑での生産などを共同とした。これをムラと呼んで、中世末からの歴史を持つところも多い。こうしたムラが江戸時代を経て、高度経済成長期までの我が国の社会基盤を支えてきた。

古い交通路は主に尾根道を用い、他の集落や遠方への交易・交通に使われた。丘陵の麓には湧水があり、要所には古いムラや寺院があった。

ムラの暮らしでは、十数年で伐採する雑木林を「ヤマ」と呼んだ。ヤマから田畑の肥料や日々の燃料(薪や炭・落葉など)、屋根材の茅を得た。谷戸の奥には水田の水の確保と、稲の生育のために水温をあげる溜池を築いた。ヤトダ(谷戸田)は溜田が多く、作業のためにワタリギ(松材)を田に埋めたりして稲の収穫をした。田植えを行

わない直播きの摘田であった。ヤマにはセキヤマ(堰山)といって、取水や分水するために川の中に築造する堰の用材を得る共有地を持っていた。

屋敷には母屋・納屋・便所・風呂場・井戸などがあり、母屋のセド(背戸)あるいは山中にお稻荷さんなどの屋敷神を祀る。ヤマには先祖が眠る墓地があった。神社も山の高い所にあった。ヤマは、単に肥料や消費材を得る場ではなく、そこに暮らす人々の精神世界を表現し、育んできた。

私は、朴木でつくった車輪と板材でシグルマ(地車)をつくり、坂道を疾走し、転倒もした。雪が降れば竹でスキーの板をつくって滑った。これらは山の坂道を利用した遊びである。木を伐って削ったバットと、ぼろ布をまとめたボールで野球をした。クスハキの済んだ山で、風呂敷のマントや手つくりの仮面をつけ、怪傑ハリマオ・まぼろし探偵・赤胴鈴之助などのTVドラマを真似て、子どものグループで遊んだ。最年少の私はいつも家来や悪役、すぐにやられてヤマに倒れた。

誰でも行ける山

八王子自然探訪 15

八王子・日野カワセミ会 会長 粕谷 和夫



▲ミヤマカラスアゲハの吸水 2025年7月31日、日影林道

八王子市は西側に高尾山系、南側に多摩丘陵、北側に犬目・滝山丘陵が連なり、数々の山に囲まれている。ここでは道幅が狭く、急坂がある「山道」ではなく、道幅が広く、傾斜がなだらかで誰でも行けるお薦めの自然探訪コースの一部を紹介する。

①日影林道から小仏城山
高尾駅から小仏行ききのバスで「日影」下車、進行方向に200mほど歩くと林道入口だ。このコースは小仏城山まで全て林道である。途中にゲートがあるので、一般車は入って来ない。ゲートまでの前半は沢沿いで、野草が豊富。春先はタカオスミレが多い。清水の出る岩の割れ目からタコガエルの声が聞こえる。夏はアゲハの仲間が水溜まりで吸水し、そこにサワガニが出て来ることもある。ゲートを過ぎると高原状の雰囲気があり、夏は道端にキキョウが咲く。秋に城山山頂で空を見

ているとサンバ、ツバメなどが通過していく。

②醍醐林道から陣馬山
高尾駅から陣馬高原下行ききのバスで「関場」下車、恩方第二小学校前を通過して醍醐林道に向かう。八王子の奥座敷という雰囲気があり、龍泉寺を過ぎると盆堀林道分岐に当たる。6月ころにはサワギクが可憐な花を咲かせる。オオルリのさえずりが聞こえるいくつかの集落を過ぎ、「ににく沢」出合を過ぎると人家はなくなる。ここまでは折り返すことがお薦めであるが、延々と続く林道を進むと和田峠に着く。ここから陣馬山まで、山頂の茶屋が利用する傾斜の緩い道を進めば30分登山頂に着く。8月にはシカ対策のネットの中で咲く上品なレンゲシヨウマにお目にかかれる。

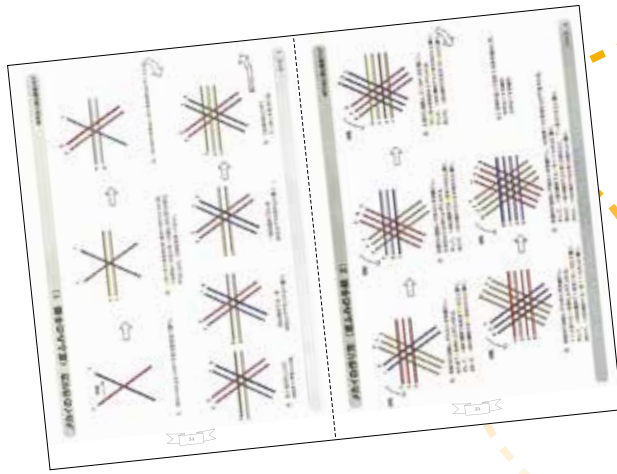
③滝山丘陵
「道の駅八王子滝山」から裏側を流れる谷地川の遊歩道を、カワセミを探しながら上流に向かう。梅坪橋で右折し、国道411号の「滝山2丁目」バス停付近から滝山城跡への道に入る。少林寺を過ぎると尾根道に出る。春はヤマザクラで有名であるが、5月になるとヤマツツシが尾根道の両側に延々と続き、見ごたえがある。雑木林ではシジュウカラ、メジロ、コゲラなどの混群が移動している。運が良ければアオゲラやアカゲラに出合うこともある。夏、クヌギの樹液に集まる国蝶オムラサキの写真を、数蚊に刺されながら撮ったことが思い出される。

改訂

メカイの作り方



八王子由木メカイの会



私の本はこうして生まれました

其の六十三

『改訂 メカイの作り方』 八王子由木メカイの会 編

2023年、八王子由木地区を含む南多摩に伝わってきた「メカイ製作技術」が、東京都の無形民俗文化財・民俗技術の指定を受けました。メカイとは、シノ（篠、アズマネザサとも）を原料とするザルやカゴのことで、この地区一帯の農家で長く作られてきました。農閑期の貴重な現金収入源でしたが、高度成長期に一気に衰退。消えゆく文化を保存しようと、本書ではメカイの製作方法や古老の聞き書きを収載。地域の宝を未来へとつなぐ1冊に仕上がっています。

2000年、「農なくして里山なし」をスローガンに、雑木林や谷戸田の再生によって里山を守る活動を八王子堀之内の仲間と始めました。手入れされなくなった里山にはシノ（アズマネザサ）は生え放題、里山を荒らす元凶となつて、キンランやタマノカンアオイ等を絶滅の危機にさらしています。しかもシノはなんの役にも立ちませんからその処理に困っていました。すると古

老から「シノはゴミではない、立派な資源だ。かつてシノでメカイというザルやカゴを作つていて、農家の重要な冬仕事だった。高度成長の始まった昭和30年代に廃れてしまったが、地域の伝統技術を復活してシノを活用しよう」との提案がありました。そこで、メカイ教室をつくつて希望者を募り、古老からメカイ製作技術を学びました。また、実演会、講習会、体験会、販売などの普及活動にも取り組みました。

年に国は文化財保護法を改正し「民俗技術」を文化財とした、メカイは文化財になり得る立派な民俗技術である、と教えていただきました。佐藤さんから勇気をいただき、いっそう力を入れて普及活動に取り組み始めました。昔のメカイ作りについて古老からの聞き書きもしました。そして、その学びを会員用マニュアルとして残すため、19年に『メカイの作り方』を自费出版しました。

我々と多摩めかひの会（多摩市）のこのような活動が実現し、23年、「南多摩のメカイ製作技術」が、東京都の無形民俗文化財・民俗技術に指定

されました。都における唯一の民俗技術の文化財です。本書は文化財指定を踏まえ、絶版となつていた『メカイの作り方』を改訂、充実させたものです。

メカイは単なる民俗技術ではありません。里山保全だけでなく、全て自然物でできていますので、脱炭素、地球環境にも貢献する大切な技術であることを知っていただければと思います。

（塩谷暢生・記）

『改訂 メカイの作り方』

八王子由木メカイの会・編

A4判、96ページ

※本書をお求めの際は、当誌編集部までお問い合わせください。